

AOI
Group

経営編

上海便り 2007年4月号

【情報提供】 【編集 / 提供】

(株) 葵ビジネスコンサルタンツ

東京本部: 横田税務会計事務所

〒143-0022 東京都大田区東馬込 1-12-12 2F

TEL: 03-3775-1220 FAX: 03-3775-1156

URL: <http://www.aoibc.com> E-mail: aoi@aoibc.com

【日本語と中国語の「同形異義語」】

文字を持たなかったわれわれ日本人の祖先は、紀元3世紀ころに日本語に漢字と漢文を取り入れました。それ以降日本は朝鮮半島やベトナムと同様に漢字文化圏に取り込まれてしまいました。

ベトナムは19世紀後半フランスの統治下に置かれ、植民地支配となりました。フランスは植民地政策の一環として、先ずベトナムを中華文化圏から離脱させるために、それまでの漢字表記をカトリック宣教師が考案したアルファベット表記(クオクゲー、国語)に変更させ、漢字から脱却させました。表記は変更されたものの、ベトナム語の中には漢語から取り入れた単語がいまだに70%以上残っているそうです。

朝鮮半島は15世紀半ばの李氏朝鮮王朝時代に、ハングル文字を作りましたが、第二次大戦が終結するまでは日本と同様に漢字とハングルを併用した表記方法を採用していました。戦後に朝鮮民族の独立意識の具体的表現として、韓国も北朝鮮もハングル表記に統一することでようやく漢字から脱却できました。

ところがわが日本は漢字にこだわり、漢字文化圏から脱却できず現在に至っています。われわれ日本人は漢字表記に馴染み過ぎたせい、『漢字で表記された中国語を見ると何となく理解できる』と錯覚する人が少なくありません。

しかし中国語を勉強すればするほど、中国語と日本語が同じ漢字表記であっても、その発展過程で違った意味をもつ単語が多く存在することに気付くでしょう。しかも幕末に始まり明治維新以降も日本が西欧の先進文明文化を取り入れる中で、日本独自の「和製漢語」を大量に作ったことが、「同形異義語」を更に多く発生させた一つの原因でもあります。

一例を挙げると、中国語の「告訴」には日本語で使う法律用語の「告訴」という意味はなく、単に相手に告げる、伝えるといった意味しかありません。そこで「我告訴他了」(私は彼に伝えた)という中国語の短文を、(私は彼を告訴した)と日本語に翻訳したら、大変な誤解を招くことになります。

このような「同形異義語」をできるだけ多く紹介し、それにより皆様に不必要な誤解を避けていただければ幸いです。以下各項のタイトルは、左側が日本語、右側が中国語とその発音、日本語の意味です。

一. 愛人・・・「愛人(アイレン)」: 夫や妻

中国共産党が1921年に創立してから、ソ連のコミンテルンの指導を受けた関係で、ソ連

の真似をして男女の区別なく互いに「同志」と呼び合い、既婚者は自分の相手を人に紹介する場合「愛人」と呼ぶようになりました。それが1949年の新中国建国後は一般庶民にもモダンな響きをもって広まりました。

「愛人」にまつわる次のような笑い話があります。1960年代初めのころ、春秋二回の広州交易会に参加した日本商社マンに、中国側貿易公司(会社)の幹部が同席していた女性担当者を「這是我的愛人」(これは私の家内です)と紹介したそうです。それを未熟な中国側通訳(外国語学院の学生)が「これは私の愛人です」と訳してしまいました。その紹介を聞いた日本人は、さすが社会主義国だけあって、自分の「愛人」まで堂々と紹介するほど開放的なのだと感心したそうです。

日本人が使う「愛人」は中国語で、そのものずばりの表現の「情夫」(チンプ)と「情婦」(チンプ)です。対外開放政策が一層深化した1990年代になって、多くの政府高官、大手企業のトップ、ITや不動産の成金族(中国では「暴発戸」という)などが、建国前まで続いた封建時代の中国伝統風習を真似て、こっそり妾(「姨太太」(イータイタイ))、「小老婆」(シャオラオポ)を囲うようになりました。一般庶民も経済的ゆとりが出来ると、夫婦共働きということもあり、「他有了外遇」(彼に愛人ができた)という風潮も現れてきました。

それでは現在中国で「夫」や「妻」はそれぞれどのように呼ばれているのでしょうか。勿論中国人同志では「主人」も「家内」も通常「愛人」を使っていますが、第三者に対して畏まって「妻」が「夫」を指す場合、「我的先生(ウォーダ シエヌション)」、「我的丈夫(ウォーダ ジャンフ)」のように使うし、同様に夫が「妻」を指す場合、「我的夫人(ウォーダ フーレン)」、「我的妻子(ウォーダ チーズ)」のように使います。「妻」に対する呼称には、老婆でなくても「老婆(ラオポ)」と言い、中高年層は「老伴兒(ラオバル)」(連れ合い)と言い、一般庶民は「媳婦(シーフ)」と呼んでいます。

中国では一般的に夫婦間は互いに名前を呼び合っていますが、隣近所の親しい人たちには「うちのお父さん」とか「うちのお母さん」のように自分の旦那や女房を指す場合、子どもを介在させて「孩子他爸(爹)」(子どものお父さん)、「孩子他媽」(子どものお母さん)のように表現します。

「愛人」と紹介された古女房 柳絮

二. 丈夫……「丈夫(ジャンフ)」:夫 大丈夫……「大丈夫(ダージャンフ)」:男の中の男

日本語の「丈夫」を(じょうふ)と読むと、男子の美称で「偉丈夫」(いじょうふ)のように心身ともに優れた男、「ますらお」の意味ですが、(じょうぶ)と読むと、「丈夫な身体(健康な身体)」、「丈夫な家(頑丈な家)」のような意味になります。

中国語の「丈夫」の「夫」の発音を1声でと読むと成年男子の意味で、日本語の丈夫(じょうふ)はここから来ています。それが転じて漢字の「夫」の発音を軽声でと読むと、「夫」(おつ)になります。前項で述べたように妻が自分の夫を指すとき、「他是我的丈夫」(彼は私の主人です)のように表現します。

さて、「丈夫」に「大」をつけて「大丈夫」にすると、中国語では「男の中の男」、「一人前の男」の意味になり、日本語でも「大丈夫」(だいじょうふ)と読むと、中国語と同じ「ますらお」の意味になります。

しかし日本語のこの「大丈夫」(だいじょうふ)は死語になりつつあり、今では「大丈夫」(だいじょうぶ)の堅牢である、間違いないなどが一般的に使われています。「この建物は地震

が来ても大丈夫だ」とか「この水は飲んでも大丈夫だ」のように使います。因みに日本語の大丈夫(だいじょうぶ)は、中国語では「不要緊(ブヤオジヌ)」、「没問題(メイウエヌティー)」、「沒什麼(メイシェヌマ)」などを使います。

中国語の「大丈夫」と同義語に「好漢(ハオハヌ)」や「男子漢(ナヌズーハヌ)」があります。日本の諺に「日光を見ずして結構と言うなかれ」がありますが、これと同じように中国語にも「不到長城非好漢(ブダオ チャンチョン フェイ ハオハヌ) (長城に到らざれば、好漢にあらず)」という諺があります。これは最終目的地に到達しなければ「好漢」(立派な男)と言えないという意味です。

わが「丈夫」古稀を過ぎてもなお丈夫 柳絮

三. 約束……「約束(ユエシュエ)」:拘束、束縛

数年前NHKが放映した韓国ドラマ「冬のソナタ」(裴勇俊:ペ・ヨンジュン、崔智友:チェ・ジウ主演)が契機となり、最近ではやや下火になってきたものの、それでも NHK、民放ともに競って韓国ドラマを放映しています。

韓国の若い男女は相手に「約束」を強要するのか、特に男に自信がないのか相手の女性に対して、日本語に近い発音の「約束」を執拗に口にしていきます。ドラマの中のこのようなシーンを見ていると、韓国語の「約束」には相手を束縛する意味が含まれているのではないかとさえ思えます。

さて、中国語の「約束」には拘束する、束縛する、制限する、制約する、取り締まるなどの意味しかなく、日本語の「約束」がもつ(取決め)や(規定)などの意味はありません。

それでは日本語の「約束」を中国語でどう表現するかというと、中国語の「約(ユエ)」1字に日本語の「約束」の意味がありますが、ただ中国語では一般的に漢字1字では不安定なので、一つの単語を2字以上で表現します。

それが「約好(ユエハオ)」=「約束する」、「約定(ユエディヌ)」=「約束する」、「约会(ユエホイ)」=「会うことを約束する」などとなります。

その「約」をどうするかにより、次のような単語になります。

日本語	中国語
約束を守る	守約(ショウ ユエ)
約束を果たす	践約(ジエヌ ユエ)
約束に背く	違約(ウェイ ユエ)
約束を破る	失約(シー ユエ)
約束を取り決める	定約(ディヌ ユエ)

日本語に「約束」を使った「約束手形」や「約束事」などがありますが、「約束手形」は「期票(チーピャオ)」、「約束事」は「約好的規定(ユエハオ ダ グイディヌ)」或いは「縁分(ユアヌフェヌ)」となります。また「前世の約束」は「前世注定的命運(チェヌシー ジューディヌ ダ ミンユイヌ)」と訳します。

約束を無理強いするのが「約束」か 柳絮

四. 心中……「心中(シンズジョン)」:心の中

日本語の「心中」には(しんちゅう)と(しんじゅう)の二つの読み方があります。ご存知のように「心中(しんちゅう)」は読んで字の如く「心の中」、「胸のうち」の意味です。中国語の「心

中」には日本語のこの「心中」(しんちゅう)の意味しかありません。

そこで日本語の用例を中国語に翻訳すると次のようになります。

- * 「心中ひそかに笑う」=「心中暗笑(シヌジョン アヌシャオ)」
- * 「心中を明かす」=「傾吐心事(チヌトウー シヌスー)」
- * 「心中穏やかでない」=「心中不平静(シヌジョン ブ ピンジン)」

中国語の「心中」の用例として、「心中有数(シヌジョン ユウシュー)」は「事情をよく知っていて自信があること」の意味、その逆の「心中無数(シヌジョン ウーシュー)」は「事情がよく分からず自信がないこと」の意味です。

日本語にはもう一つ「心中(しんじゅう)」という読み方があり、通常「相思相愛の男女が一緒に自殺すること=情死」ですが、それが転じて「親子心中」、「一家心中」など一緒に死ぬことを表現するときにも使われます。また「会社と心中する」のように、(会社と運命を共にすること)や「彼に心中建てをする」のように(人との約束を守り通すこと)の意味にも使われます。

中国における「自殺」の例は枚挙に暇がありません。戦国時代の有名な故事として、楚国の政治家で憂国の詩人屈原(BC343～278年)が、秦国の謀略を見抜き楚の懐王を必死に諫めたが受け入れられず、楚国の将来に絶望して汨羅江(べきら江)に入水自殺しました。後に人々は屈原の無念を鎮めるために、彼の命日の旧暦5月5日(端午の日)に、粽(ちまき)を作り龍頭の船に乗って川に投げ込んだと言伝えがあります。これが後に端午の節句となり、またドラゴンレースの始まりであると言われています。文化大革命の時代は無実の罪に抗議して自殺する人がいましたし、最近では地方役人の圧政に反対して自殺をもって抗議する人がいます。

しかし中国には日本のように人を道連れにした「心中(しんじゅう)」事件はあまり聞かれませんが、最近外国文化の影響か「情死」する若い男女が現れています。決して多くないようです。そもそも中国人の倫理観や宗教観から「情死」という発想がないのかも知れません。

「心中」^{シジン}に考えあって心中する 柳絮

五. 怪我・・・「怪我(グアイウオー)」:私のせい

我々日本人にとって見慣れた日本語の標語「油断一秒・怪我一生」や「油断大敵」を、中国人が見ると全く違った意味に解釈するでしょう。

中国人がこの標語を見ると、先ず中国語に「油断」という単語はないが、「油」は油そのものであり、「断」には(切る、途絶える、断つ、判断する)の意味があります。そこで「断」は動詞だから、中国語では「断水」のように「断油」となり、ここでは(切らす、断つ)と解釈して「油を切らす」と理解するでしょう。ただこの「油断」は「涅槃経」の比喻に出てくる仏教用語であり、(不注意)という意味だそうです。

また、「怪我」の「怪(グアイ)」は中国語で(怪しい、疑う、妖怪、とても)のほかにも、動詞として(責める、とがめる、～のせいにする)の意味があります。「怪我」のように「怪」の後に人称代名詞などがくると、(そのせいである)とか(それを責める)とかの意味になります。従って、「油断一秒、怪我一生」の標語を中国人は「油を一秒切らせば、自分を一生責める」と解釈するでしょう。日本の工場の労務管理は相当厳しいと解釈するでしょう。

それでは、日本語の「油断」は中国語で「粗心大意(ツウーシヌ ダーイー)」や「麻痺大意(マーピー ダーイー)」といいます。「怪我」の(傷)は「傷(シャン)」であり、(過失)は「過

錯(グォーツオー)」や「過失(グォーシー)」といます。

ここで「傷」を使った中国語の用例をいくつか列記してみましょう。

- * 「出口傷人(チューコウ シャンレヌ)」=「毒舌を吐く」
- * 「別傷心(ビェ シャンシン)」=「悲しまないで」
- * 「傷風(シャンフォン)」=「風邪をひく」
- * 「傷感情(シャン ガヌチン)」=「仲たがいのする」

さて、「油断」というと、堺屋太一氏の小説『油断』が時代を先取りして30年ほど前にベストセラーとして話題を呼びましたが、この『油断』は正に(石油を断たれる)ことをテーマにした小説です。

ある日、突然、石油が断たれ、そのほとんどを輸入に依存する日本はなすすべもなく崩壊してゆく姿を、赤裸々に描き出した衝撃の予測小説であり、原油高、テロ、自然災害が相次ぐ昨今、30年ぶりに甦った警世の書です。日本が「油断」していると、中国との資源争奪戦に負ける恐れがあります。

2005年12月に日本経済新聞社から復刊されましたので、ご興味のある方は図書館でも目を通して見ては如何でしょうか。

(樺島 康介:記)

樺島 康介 (財)海外職業訓練協会 国際アドバイザー:No.857 OVTA-China メンバー
